

# 道路整備事業を契機とする住民主体の街路沿道一体型まちづくりの在り方に関する研究 —石巻市中央一大通り復興事業を対象として—

1363086 竹田 涼

指導教員 高見沢実教授 野原卓准教授 和多治特別研究教員

## 1. 研究背景と目的

近年では歩行者中心のまちづくりが求められるようになり、みち空間の整備が各地で行われているが、魅力的なみち空間を創出するためには道路整備と併せて沿道空間の整備も行っていく必要がある。その際には沿道住民がまちづくりに参加することが望ましく、さらには利用者や新住民のことも意識して整備を行うべきである。そこで本稿では道路拡幅を契機として沿道住民参加で道路と沿道を一体的に整備した「石巻市中央一大通り」の事例を取り上げ、整備意図や住民の関わり、整備後のまちに対する利用者や新住民の評価を明らかにし、本事業における成果と課題を分析するとともに、街路沿道一体型まちづくり<sup>\*1</sup>の在り方を考察することを目的とする。

## 2. まちづくりの経緯と主体のかかわり

中央一大通りでの街路沿道一体型まちづくりの導入プロセスが図1である。道路拡幅への反対、住民に開かれたまちづくりの場の必要性から、住民を含め多主体が参加する「街並み委員会」が設立された。

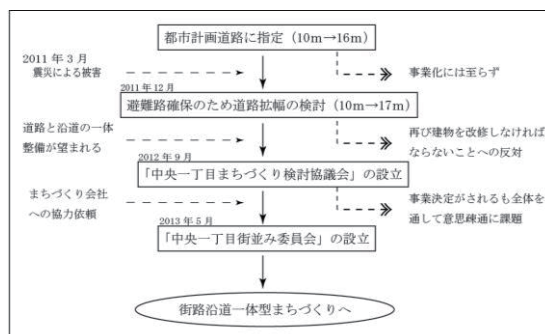


図1 街路沿道一体型まちづくりの導入プロセス

中央一大通りでは沿道住民・利用者・本事業で建設された復興公営住宅の新住民の3種の住民が存在する。この中で「街並み委員会」にて検討を行うのは沿道住民だけだが、元々地域のつながりを大切にしていたこともあり、利用者や新住民も意識したビジョン「お客さんとのつながりを大切に新たな世代を受け入れる安全安心なまち」を掲げ、まちづくり

会社や行政、大学が調整や提案、情報提供などのサポートを行いながら議論が行われた。（図2）

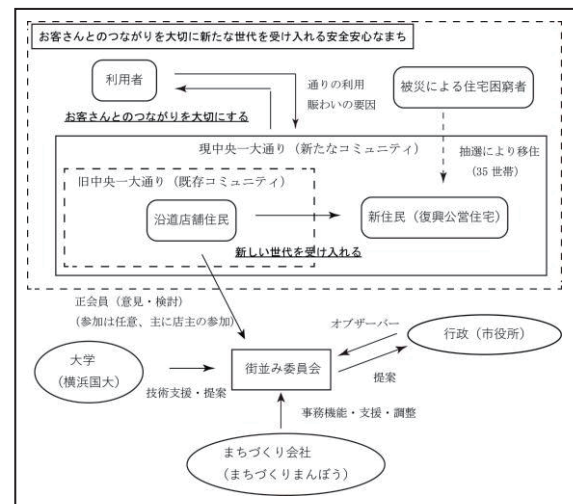


図2 街並み委員会の構成と住民のかかわり

## 3. 整備内容と意図・住民の関わり

整備のまとめが表1である。道路整備からソフト面まで幅広く整備が行われたが、アイデアカードや社会実験といった取り組みから詳細検討まで沿道住民参加のもと議論が行われた。またこれらでは温かみ・使いやすさ・安全面・地域のつながりといった利用者や新住民のことも意識した意見も挙げられた。

## 4. まちに対する住民の評価

### 4.1 沿道住民の評価

沿道住民への過年度アンケートによると、街並み委員会の内容、自身の整備には満足しており、景観意識も向上したという結果が得られている。<sup>\*2</sup>

### 4.2 利用者・新住民の評価

#### （1）アンケート概要

整備後のまちの利用者・新住民の捉え方を分析するため、2種のアンケートを実施した。（表2）

表2 アンケート概要

	アンケート①(利用者アンケート)	アンケート②(新住民アンケート)
日時	2016年10月22日(土)	2016年12月1日(木)～12月12日(月)
対象	まちの利用者	市営中央第一復興住宅の新住民
方法	街頭アンケート（@中央一大通り）	アンケートのポスティング
配布数	-	35戸×3部
回答数	53部	15戸(43%) 20部
主な内容	整備後の中央一大通りの評価に関して まちづくりへの住民参加に関して	整備後の中央一大通りの評価に関して コミュニティ面に関して
備考	まちびらき(イベント)が開催	-

表 1 個々の整備のまとめ

	整備内容	整備に至った理由	沿道住民の考え・意向	主な検討内容	沿道住民の関わり	整備結果
道路整備	道路拡幅	避難道の確保	一体感を維持したい 歩行者が安全に使えるようにしたい	道路幅・配分 自転車レーンの有無 右折レーンの有無	アイデアカードによる検討 模型や図面を用いた検討 社会実験への参加	右折レーンを両端に設け 自転車レーンは設けず 17mに拡幅（歩道：3.5m～4.0m）
	舗装	拡幅に伴う道路整備	温かみ・一体感が欲しい 段差をなくしたい（車いす目録） 排水面の考慮も必要	詳細パタンの検討 フルフラット化 舗装材	パターン・舗装材の比較検討 実物（中々）の取り寄せ 社会実験への参加	フルフラット化の実現 舗装整備の実施
	街灯 車止め フットライト	拡幅に伴う道路整備	まちをきれいに見せたい 温かみを演出したい 街並みをそろえたい 柔軟な使い方をしたい 安全性にも考慮したい	システム 配置・個数 デザイン・高さ	アイデアカードによる検討 製品・個数・配置の比較検討	街灯：18本設置 車止め：79本設置（一部脱着可） フットライト：26本設置
沿道整備	店舗改修・建替	拡幅（区画整理） の実施	統一感を持たせたい お客さんが使いやすい ようにしたい	デザイン・しつらえ 色彩 店舗内を見せるつくり	アイデアカードによる検討 個人の整備 店主からの進捗報告会 設計勉強会（全6回） 模型による検討	対象店舗（10店舗）の整備が終了
	復興公営住宅の建設	居住機能の必要性	新しいコミュニティを形成したい みんなが使える広場をつくりたい	外構・広場のデザイン コミュニティ形成	図面や模型を用いた検討 アイデア投票	1階に広場・集会所が設置
魅力的 にする 仕掛け	おもてなしゾーン （店舗をセットバック した部分の活用）	歩きたくなる雰囲気づくり	お客さんが使いやすい ようにしたい	セットバック部分の使い方	アイデアカードによる検討 個人の整備・進捗報告会 設計勉強会（全6回） 模型による検討	店舗改修に伴い整備 ベンチや看板の配置
	まちかぐ （ストリートファニチャー）	みちに賑わいを作る	まちを使うきっかけとなつてほしい 統一感をもちたい それぞれ欲しいものを作りたい	デザイン・用途 レニビ化 ロゴの作成	模型製作への参加 個別ヒアリング（希望聴取） 店先にまちかぐを設置 模型・試作品による検討	まちかぐが一部完成 レニビが一部完成 ロゴの完成
ソフト面	イベント	魅力・賑わいを生み出す	コミュニティを形成したい まちを使つてほしい 賑わいをもちたい	企画・配置検討 イベントの開催・報告	アイデアカードによる検討 イベントへの参加・協力・検討 （地域の学生の協力）	中央一大通り食堂の開催（2014年） 宇奈会館の開催（2014年、2015年） まちびらきの開催（2016年）
	情報発信マップ	情報発信の必要性	中央一大通りのことを知ってほしい	記載内容・デザインの検討	情報提供・最終確認	石巻いほろの完成、配布

## （2）アンケート結果・考察

現在と整備前のまちを比較していただくのと全ての人が「良くなった」と答え、まちが大きく変わったことへの抵抗や一体感の喪失を感じる人も少なかった。また、現在の中央一大通りで「良いと思うもの」と「今後求めるもの」を尋ねた結果が図3である。

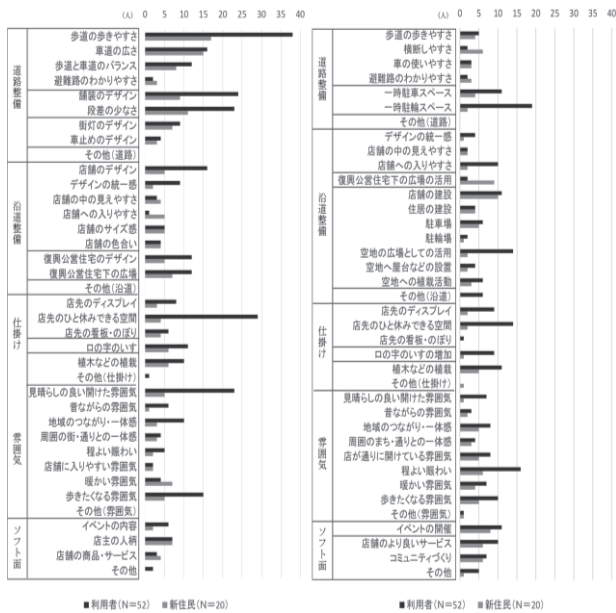


図 3. 良いと思うもの（左）と今後求めるもの（右）【複数回答】

「歩道の歩きやすさ」「車道の広さ」「舗装のデザイン」「段差の少なさ」「見晴らしのよさ」を多くの人が良いと感じており、「横断のしやすさ」を求める意見も少ないことから安全面や歩きやすさを含め道路整備は特に評価されており、拡幅に対してもプラスに捉えられていた。また、使いやすさが考慮された建物のしつらえに対しては、「店先のひと休みできる空間」が特に利用者から評価されていたほか、「店舗のデザイン」も一定の評価がされていた。一方、今

後求めるものとして「一時駐輪スペース」「空地の広場としての活用」「程よい賑わい」を求める意見が多く、整備後のまちの使い方を検討し、賑わいの創出にも努めていくことが今後必要である。

また、新住民に対してのみ行った質問では沿道住民と繋がりのある人は1割であり、まだコミュニティを形成できてはいなかった。しかし沿道住民と繋がりを持ちたい人は6割存在し、顔合わせの場を求めている。また中央一大通りのイベントの参加意欲・経験は共に7割あり、コミュニティ形成、賑わい創出のためにもイベントの開催が今後望まれる。

## 5. 総括

本事業ではまちづくり会社、行政、大学といった多主体が技術支援や情報提供などのサポートをし、社会実験などのイメージ抽出の取り組みから詳細検討にまで沿道住民が参加することで住民意見を反映させたと分かった。議論では安全面など利用者や新住民のことも考慮され、コミュニティ形成や賑わいづくり、整備後のまちの使い方には課題を残すが、道路整備を中心に利用者や新住民もおおむね整備に満足している。本事業のように街路沿道一体型まちづくりでは沿道住民がイメージを述べ、詳細部分にも意見できる場を設け、行政や専門家などがサポートを行いながらあらゆる住民のことも意識したまちづくりを行っていくことが重要であると考えられる。

### 【補注】

1. 道路整備と沿道整備を同時に行うまちづくりと定義する。
2. 釣祐吾（2016）「街路・沿道一体型空間整備における街並みビジョン形成とその担保に関する研究」において
- 【主な参考文献】
1. 植松達哉（2015）「沿道空間における事業を契機とした住民主導型の景観及び賑わい創出のプロセスに関する研究-地方都市の中心市街地を対象として-」横浜国立大学大学院
2. 釣祐吾（2016）「街路・沿道一体型空間整備における街並みビジョン形成とその担保に関する研究」横浜国立大学大学院
3. 市役所大通り街づくり手帖、市役所大通り街並み委員会、横浜国立大学都市計画研究室